

2021 第20回

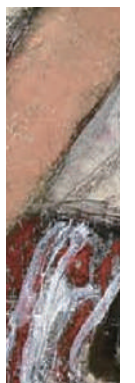
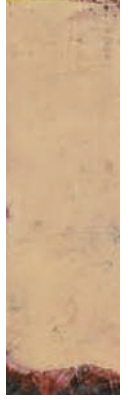
ときめき・感動・くらしに文化

やまなし県民文化祭



2021

第20回
やまなし県民文化祭
記録集



あいさつ

第20回やまなし県民文化祭が、多くの皆様の御支援、御協力をいただき、県内各地で県民の皆様の御参加のもと、開催できましたことを大変うれしく思っております。

やまなし県民文化祭は、県民の皆様に文化芸術の発表や鑑賞の機会を提供し、文化芸術活動への参加と交流を促進することにより、個性あふれる文化芸術の創造をめざすことを目的に平成13年度から開催しており、今回で20回目を迎えます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、県内の多くのイベントが中止や延期を余儀なくされるなか、やまなし県民文化祭も全イベントの開催を見送り、今年度に延期となりました。

今年度のやまなし県民文化祭は、一部の催しが中止になったものの、万全な感染対策を講じながら年間を通じて多彩なイベントを開催することができました。

特に部門別フェスティバルにおける書道・写真・華道・フラワーデザイン・ハンドクラフトの美のコラボレーションなど異なるジャンルの部門が競演する新しい取り組みは、文化芸術のもつ魅力と可能性を更に広げてくれる機会となりました。

また、中止となりました第20回記念公演では、辻村深月氏の原作を題材にした舞台の準備に様々な芸術団体や一般参加者が一丸となって取り組んでこられました。こうした協働の取り組みは、今後のやまなし県民文化祭の更なる充実の糧になったものと信じております。

文化芸術活動は、人々が自己の可能性を最大限に発揮し、自分らしく豊かに生きるために大切なものであり、人々の相互理解をもたらすだけでなく、和やかで潤いのある生活を実現するための重要な拠り所でもあります。

これからも、やまなし県民文化祭がこうした文化芸術活動を支え、県民の皆様の優れた文化芸術の鑑賞、発表の機会のある場としてますます発展していくことを期待するとともに、幅広い世代の方々に楽しんでいただける祭典となるよう、関係者の皆様のより一層の御支援、御協力をお願い申し上げます、私のあいさつといたします。



山梨県知事
長崎 幸太郎

第20回やまなし県民文化祭が多くの県民の皆さまの御協力により、開催できましたことを心から感謝申し上げます。

昨年度に実施できなかった「第20回やまなし県民文化祭」は、今年度に改めて20周年を記念する大会として開催いたしました。

今年度のやまなし県民文化祭では、新型コロナウイルス感染拡大により多くのイベント等に制限が生じるなか、新しい生活様式を採り入れ、各々が試行錯誤しながら部門別フェスティバルや今年度の目玉である第20回記念公演の成功に向けて熱心に取り組んで参りました。

部門別フェスティバルでは、それぞれの部門の特色を生かした舞台発表や展示の開催をはじめ、文化芸術を身近に体験できるワークショップ等の開催や、異なるジャンルの部門が競演して共同制作で作上げた作品の発表を通じて、文化芸術のもつ魅力と奥深さを多くの皆さまと分かち合うことができました。

また、中止とした第20回記念公演では、ジャンルを超えた文化芸術の多様性を舞台上で表現するため、展示、舞台、一般参加者が結束を図り、これまで類を見ない舞台製作の取り組みに邁進されてきました。

こうした取り組みを活かして、今後もやまなし県民文化祭が身近で親しみやすい文化の祭典として、より多くの県民の皆さまに文化芸術の素晴らしさを伝えていく一助となるよう皆さまとともに尽力して参ります。

また、皆さまとともにこのコロナ禍を乗り越え、そして、安心して気兼ねなく生の文化芸術に触れることができる日常が、一日も早く戻ってくることを願っております。

結びに、関係者の皆さまの御尽力に厚く御礼申し上げるとともに今後ともやまなし県民文化祭の開催にあたり格別の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



やまなし県民文化祭
実行委員会会長
野口 英一

目 次

あいさつ	山梨県知事 長崎幸太郎	2
	やまなし県民文化祭実行委員会会長 野口英一	2
I 第20回記念事業		
第20回記念事業		4
II 部門間コラボレーション展示		
部門間コラボレーション展示		7
III 部門別フェスティバル		
美術展・書道展・写真展より		8
美術展		9
書道展		10
写真展		11
華道展		12
フラワーデザイン部門展示会 花のちから		13
ハンドクラフト展		14
文学		15
茶道体験教室		16
合唱フェスティバル2021		17
邦楽部門公演会		18
ダンスフェスティバル2021		19
民謡民舞フェスティバル		20
朗読フェスティバル		21
太鼓部門公演		22
吟剣詩舞道大会		23
部門別フェスティバル受賞者一覧		24
第20回やまなし県民文化祭 実施状況		25
IV 協賛事業		
		26
V 資料		
やまなし県民文化祭開催要綱		27
やまなし県民文化祭協賛事業実施要項		27
第20回やまなし県民文化祭実行委員会委員		28
やまなし県民文化祭実行委員会規約		28
第20回やまなし県民文化祭運営委員会委員		29
やまなし県民文化祭運営委員会規約		29
やまなし県民文化祭実行委員会事務局		29
第20回やまなし県民文化祭部門別フェスティバル 専門委員		30

第20回記念事業

記念舞台「ツナグ」 ／シンポジウム

令和4年2月20日(日) 13:00開場 13:30開演
YCC県民文化ホール 大ホール

20回目の節目となる「やまなし県民文化祭」の記念事業として、コロナ禍においても文化芸術の灯火が消えぬよう『継』をテーマとした舞台、シンポジウムの開催に向けて念入りに準備を進めて参りました。

記念舞台では、甲府市出身の井上尊晶氏を演出家にお迎えし、笛吹市出身の辻村深月氏の『ツナグ』を原作に、ジャンルを超えた文化芸術の多様性を舞台上で表現するため、様々な芸術団体や一般参加者が一丸となって取り組みました。

また、シンポジウムでは、ウィズコロナ・ポストコロナにおける文化芸術の価値や大切さ、これからの文化芸術の在り方などを考える機会とするため、講師の選定や内容の検討など企画立案に注力しました。

残念ながら新型コロナウイルス急拡大により本事業は中止となってしまいましたが、このような協働の取り組みは、部門の自主性や部門間における交流の促進を図るだけでなく、歴史が長い「やまなし県民文化祭」において、これまで類を見ない価値のある事業となりました。



写真部門

撮影：守屋 喜彦



関係者の皆様には、原作「ツナグ」のキーワードをテーマにそれぞれの感性で作品制作にご協力いただきました。

書道部門



「ツナグ」矢崎 美咲



「想い人」宮田 香彩



「後継者」雨宮 春聲



「月光」上野 卿堂



「生者」田中 志津



「一度きり」天野 白汀



「交渉」市川 擁舟



「依頼」武井 由苑



「感想」花田 龍溪



「使者」大橋 洋之



「死者」大橋 洋之



「繋」樋川 朝風



「歩美」笠井 魚山



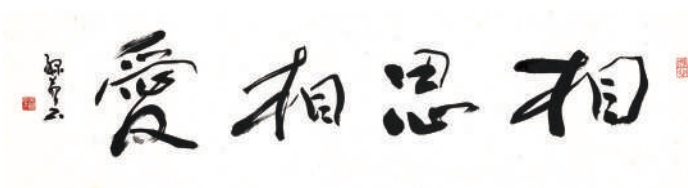
「満月」赤池 幽水



「青銅鏡」伊藤 緑山



「継」杉本 蕙香



「相思相愛」上野 緑苑



「魂」安部 光泉

※掲載写真は一部の作品となります。



「〇×」
佐野 莉衣奈 甲府昭和高等学校



「また会おう!!」
渡邊 ゆいの 青洲高等学校



「書き初め」
鈴木 蒼叶 甲府昭和高等学校



「前進全力!!」
小佐野 禮 富士北稜高等学校



「そこにいたの!？」
村松 航 甲府昭和高等学校



「未来」
大山 紗羽 甲陵高等学校



「松本ポーズ～誕生日編～」
浅川 治駒 韮崎高等学校

山梨県高等学校写真連盟 冬季審査会

第20回記念事業にご協力いただきました



第20回記念事業専門委員

- | | | | | |
|----------|----------|----------|----------------|--------------|
| 写真 守屋 喜彦 | 華道 稲葉 一溪 | 書道 大橋 洋之 | フラワーデザイン 奥山幾代子 | ハンドクラフト 進藤 恵 |
| 邦楽 鈴木 逸明 | 洋舞 成澤千香子 | 朗読 横森 美保 | 太鼓 山口 琳平 | 吟剣詩舞 天野 岳庵 |

II 部門間コラボレーション展示

部門間コラボレーション展示

やまなし・美の競演

令和4年2月23日(水・祝日)～25日(金)
10:00～18:00(最終日は16:00まで)
山梨県防災新館1階 オープンスクエア全面



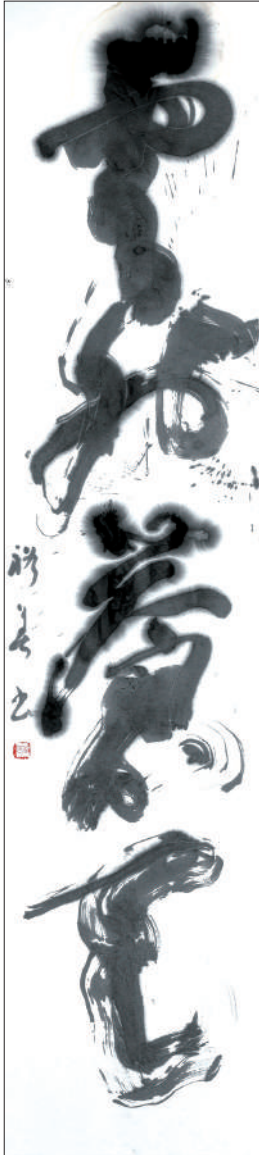
本年度は部門別フェスティバルのコラボレーション事業の一環として、書道・写真・華道・フラワーデザイン・ハンドクラフトの5部門によるジャンルを超えたコラボレーション展示が開催されました。今回は新たなコラボレーション展示ということもあり、各分野で活躍する県内作家の多彩な作品が会場を華やかに飾りました。

部門	分類	合計点数
書道	漢字12点、調和体3点、かな2点	17点
写真		17点
華道		5流派
フラワーデザイン		7点
ハンドクラフト		10点
	出品合計	56点
	来場者数	302名

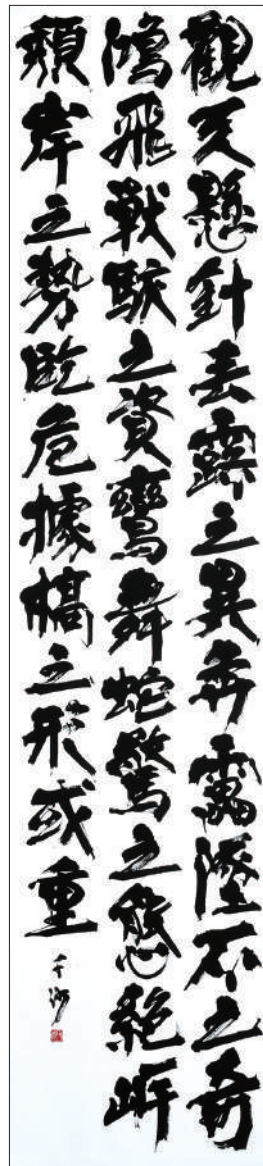


Ⅲ 部門別フェスティバル

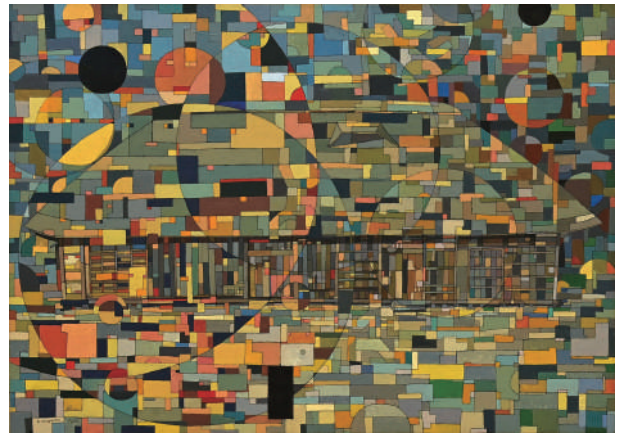
美術展・書道展・写真展より



県民文化祭賞 漢字
「雲外蒼天」
清水 裕美
(南アルプス市)



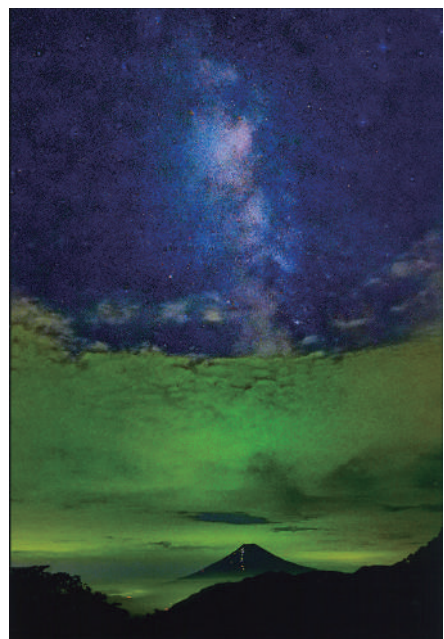
準県民文化祭賞 漢字
「書譜一節」
朝比奈 千沙
(身延町)



県民文化祭賞 油彩 「きえゆく物 (すみ家)」
森 菊五郎 (山中湖村)



県民文化祭賞 モノクロ写真の部 「足元ヒカル」
堀江 幸太 (葦崎市)



準県民文化祭賞 ネイチャー写真の部 「夏富士」
高津 秀俊 (大月市)

美術展

11月13日(土)～11月19日(金) 9:00～17:00

(15日は休館日、最終日は16:00まで)

山梨県立美術館県民ギャラリーA・B・C

開催状況

美術展においては、日頃より県文化祭としてのテーマ「くらしに文化が根付くやまなし」実現を理念に、1948年から開催してきた県芸術祭を継承し、県民文化祭として今回で20回目を迎えた。美術部門では、山梨の文化活動推進のため幅広く活動してきたと思っている。

美術部門の活動については、公募展において、作品種別を多く設けた。毎年、県内在住者および県出身者など広く応募があり、県内行事最大の美術展として定着しており、若い世代から経験豊かな世代の出品者の研鑽の場となっていると言っても過言ではない。

今回は、コロナ禍の中であったが、県内から多くの応募があり、具象、抽象と作者の思いを込めたインパクトのある作品が集まった。感染予防に配慮しながら多くの観覧者が訪れ、盛況のうちに見ごたえのある展覧会となり、次回への作品応募の増加を期待しつつ終了した。

ここ最近、公募展以外にも発表の場が増え、若い世代の出品離れが懸念されている。美術部門としても、多様なジャンルを受け入れることは今後の課題としている。より強烈な色合い、派手さの中にも緻密に計算された作品を求めている。美術展の一層の充実を図るとともに、山梨の美術向上のため、専門委員協力のもと、作品の質を落とさず、芸術性を強く意識し、どこと比べても引けを取らない、全国に誇れる作品展にしていきたいと考えている。



○美術展

部門	応募人数	応募点数	入選点数	審査員・招待
・油彩	63	71	59	33
・水彩	27	28	26	6
・版画	4	4	4	6
・日本画	5	5	5	4
・水墨墨彩	6	7	6	4
・彫刻	2	3	2	4
・工芸	8	8	8	5
・複合立体	2	2	2	1
計	117	128	112	63

陳列総点数 175点

(入選112点、審査員・招待63点)

入場者数 1,168名

書道展

10月27日(水)～11月2日(火) 9:00～17:00
 (1日は休館日、最終日は15:00まで)
 山梨県立美術館県民ギャラリーA・B・C

開催状況

令和3年10月26日、中央書壇より毎日書道会総務山中翠谷先生を山梨県立美術館にお招きし、第20回やまなし県民文化祭書道展の審査が行われた。

コロナ禍のため令和2年に開催されるはずであった県民文化祭は令和3年へ延期となり記念すべき20回目の開催となった。以前として続くコロナ禍の中にあっても、書道を愛好する熱き思いを込めた今回展の応募点数は281点、内入賞者26点が選出。委嘱出品57点と合わせ、県民ギャラリーA・B・Cを使用し338点の展観となった。

審査総評として「線の生命力や作品の空間美、造形美が宿っているか、また書き手の意思が表れているかという観点で審査した。応募作品からは山梨で書道を追求する人たちの熱意を感じた。」第一席のやまなし県民文化祭賞の清水裕美さんの書は「一体感のある作品の中に強弱があり、紙面から訴えかけてくる線の響きが実に強い」と。その他準県民文化祭賞1点、優秀賞9点、奨励賞15点、計26点の入賞者と、入選作品が選考された。

コロナ禍のため、好評を得ていたギャラリートークは中止。例年より会期中の観覧者が少ない状況ではあったが、有意義な書道展であったと思う。

○書道展

応募点数

漢字	167点
一字書	34点
調和体	26点
かな	32点
篆刻	10点
刻字	12点
(公募) 出品総点数	281点
委嘱出品数	57点
陳列総点数	338点
入場者数	828名



写 真 展

11月3日(水・祝日)～10日(水)9:00～17:00
 (8日は休館日、初日は13:00～最終日は15:00まで)
 山梨県立美術館県民ギャラリーA・B

写真家 大西みつぐ 写真講座

11月6日(土) 13:30～16:00
 山梨県立美術館・講堂

開 催 状 況

第20回やまなし県民文化祭は、COVID19感染拡大により昨年開催予定のところを1年延期して開催された。写真部門では、恒例で開催してきた山梨県写真団体連絡協議会所属クラブの会員写真展も昨年度は中止となり、会員各位意欲消沈、活動意欲をそがれた状況であったが、今年度は、COVID19に留意し乍らのやまなし県民文化祭開催がされることとなり、スケジュールに基づく写真展に係る募集要項作りから専門委員による活動が始まった。8月末募集期限で山梨県下の小中高校生から、一般の県民を対象に募集を広げたが、やはり例年より若干の応募者減少が見られたが、地域の伝統行事のお祭りなど中止され、撮影が出来なかったことやコロナウイルス感染を恐れて撮影行の行動にも制限があった為と考えられる。

今年度は、スナップ撮影を得意とする写真家・大西みつぐ氏に審査を依頼しての写真募集であり、入賞写真展期間中に開催した写真講座においても入賞作品をはじめとする応募作品について丁寧なコメントも依頼したので、写真講座参加者も関心を高めて講座にしっかり聞き入っていた。

COVID19終息後のやまなし県民文化祭においては、今回の経験を十分斟酌のうえ、多くの山梨県民に関心を高めて戴き、そして参加戴けるよう事業を検討したいと考える。

○写真展

応募点数

モノクロ写真の部	83点
カラー写真の部	170点
ネイチャー写真の部	119点
小中高生の部	173点
合計	545点

出品者数..... 148名

入場者数..... 1,015名

○写真家 大西みつぐ 写真講座

参加者数..... 44名



華道展

10月7日(木)～12日(火) 10:00～18:30
山梨県防災新館 1階オープンスクエア全面

いけばな体験教室

10月9日(土)～10日(日) 11:00～13:00
山梨県防災新館 1階県民ひろば

開催状況

華道部門ではこれまで、「華道文化振興」を目指して華道展を開催して来ました。昨年度の県民文化祭華道展は、新型コロナウイルス感染拡大のために延期となり、大変残念な思いでしたが、今年度は、感染症拡大防止策に基づいた県の適切な指導により、無事開催することができました。開催にあたり、県の担当者とは何度も意見のすり合わせを行ったことが印象に残っています。

今回のフェスティバルが一年間のお休みの後に開催されただけに入場者数が大変気になっていましたが、前回並の入場者数で本当に安堵しました。

体験型事業においても「県民ひろば」という素晴らしい場所を提供していただいただけでなく、ソーシャルディスタンス確保のための机や椅子の設置など、会場設営にもご尽力いただき、担当者の心地良い対応に大変救われました。

華道は「敷居が高い」とか「堅苦しい」という声を耳にすることがあります。確かに、日本の伝統文化である「華道」は、日々の修練や稽古を大切に、自己の向上と確立を目指すことを第一としています。しかし一方で、現代の住空間に適応し、気軽に楽しみながら「いけばな」をするといった考え方もあるのです。実際、今回のフェスティバルでは、家の中のどこにでも飾れそうな、小品花の展示も試みました。体験型事業でも、様々な花材を取合せつつ、グラスを花器として見立てたりと、今のライフスタイルに即した素敵な「いけばな」が出来上がるのを目の当たりにしました。そういった「いけばな」の側面も、大切にしていきたいと思います。

今後もwithコロナの日常が続いていくことでしょう。そうした未来においても、県民文化祭華道展のような事業が、「華道」を志す者の発表の場として、「いけばな」を楽しむ機会として、与え続けられることを切に願います。

○華道展

出瓶流派数……………16流派
出瓶者数……………80名
作品点数……………96点
入場者数……………790名

○いけばな体験教室

参加者数……………100名
指導者……………16名



フラワーデザイン部門展示会 花のちから

12月4日(土)～5日(日)10:00～18:00
甲府市総合市民会館2階遊亀公民館展示室

フラワーデザイン ワークショップ

一般：12月4日(土) 11:00～12:15
12月5日(日) 14:00～15:15
展示会場内・講習会スペース
中高生：12月4日(土) 14:00～15:20
遊亀公民館・講義室Ⅱ

開催状況

フラワーデザイン部門は記念すべき20回目の県民文化祭開催に当たり、コロナ禍で中止した昨年も季節を告げ生物の強さを無言で伝え続けた～花のちから～を今回のタイトルに作品展示と体験型事業で魅力を広げたく心新たに臨みました。

コロナ対策・制限も多く、来場者が密にならず居心地の良いレイアウト・心和む音色、受付はパーテーションや検温消毒器と思いを込めた作品が迎えました。ワークショップ会場は受講者間のパーテーションや毎回の消毒、中高生を受講数が会場内キャパより多かった為、他会場増設と準備も大変でしたが、講習は定員を超え受講出来なかった方々の見学もありました。今回の講習内容はクリスマスリースを制作、クリスマスの後のお正月飾りに出来る作品は好評でした。

第20回記念事業も無事に終了出来ました。今後の課題として、山梨の文化芸術・フラワーデザインの発展と拡大を考え運営して頂きますリーダー達、時ある毎にお誘いしております新メンバーの参加等々、各々新しい日常で大変な中、貴重な時間を割いて頂く…新たな活動の模索とともに、世代交代・バトンタッチは必至で悩める月日は続いております。

○展示会

出展者……………32名
入場者数……………500名
出品点数……………50点(合作も含む)

○ワークショップ

指導者数……………各5名(2日間)
参加者数……………50名(2日間)



ハンドクラフト展

11月4日(木)～10日(水) 9:00～17:00
(8日は休館日、最終日は15:00まで)
山梨県立美術館・県民ギャラリーC

開催状況

秋の青空にいちよう並木の黄色が美しい山梨県立美術館で第20回やまなし県民文化祭・ハンドクラフト展が開催されました。

会場は山梨県立美術館、県民ギャラリーC。

会期は令和3年11月4日(木)～11月10日(水)、来場数=986名、出展者数49作品の素晴らしい作品が展示され、今年は大作も多く出展されました。山梨日日新聞の取材も受けて新聞に掲載されました。今年の展示会はまず新型コロナウイルスの感染対策を十分に行うことに取り組み、来場者の展示場内の人数(美術館1室40名まで)の確認を行うこと。マスク着用の有無、手指消毒の徹底を行うこと。出展者の方々には事前に封書にて、感染対策へのご協力をお願いいたしました。このような状況の中、触れて手で回して動かすことのできる「からくり」の作品については、開催前に動画で「からくり」の作品が動いている様子を撮影したものをタブレットによって観ていただくという新しい試みに挑戦いたしました。観ていただいたご来場者の皆様の目が輝き、感嘆のため息が出るという大きな反響があり、老若男女を問わず楽しんでいただくことができました。コロナ禍であっても工夫してできることに取り組み、力を合わせて一緒に活動することを通して、支え合い育ち合っている場となっているのだと感じました。「毎年楽しみに来ています」「来年も是非見せていただきたいです」のお声を頂戴しました。「どのようにできているのか」「何で作られているのか」などの質問も多かったので、体験型事業の期間中の開催について前向きに検討しております。多くの方々に興味をもっていただき、感心をもっていただけるよう精力的に活動し、ハンドクラフト部門の更なる活性化に力を合わせて尽力をつくす所存です。

○ハンドクラフト展

参加者数

会員	11名
一般公募入選者	38名
(合計)	49名
入場者数	986名



文 学

表彰式 令和4年2月26日(土)

山梨県立文学館・研修室

(新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止)

開催状況

文学部門では、やはり新型コロナウイルス、オミクロン株などの影響もあって、令和2年度(2021)の県民文化祭・文学部門の作品公募は中止されました。しかし令和3年度(2022)は、3密に用心しながらの文化祭開催が決まり、文学専門委員会も開催され、実施要項も作成、配付されて実際、募集も行われました。結果としては令和元年度(2020)応募者数243名だったのが、令和3年度(2022)は226名、8%減で作品が集まりました。県民文学そのものは県民のある一定層には定着していることがわかりました。エッセイと児童文学に多少の減少が見られましたが、何かの原因があったのでしょうか。県民各位のますますの御指導と御支援を重ねてお願い致します。

令和3年度のワークショップは、残念ながらコロナ禍で中止が決定され、実行されませんでした。令和4年度(2023)には、詩の部門で大きなイベントを計画していると仄聞しております。

県民文芸 2021



第20回やまなし県民文化祭 文学作品集「県民文芸2021」

○文学

応募者数

小説	10名
児童文学	8名
エッセイ	9名
詩	17名(26作品)
短歌	54名
俳句	50名
川柳	78名
(合計)	226名(235作品)

茶道体験教室

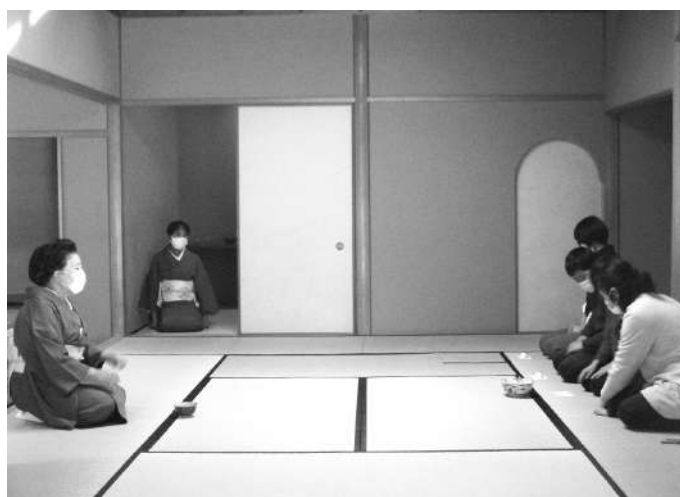
12月19日(日) 10:00~16:50
素心庵(芸術の森公園茶室)

開催状況

令和3年12月19日(日)、素心庵に於て茶道体験教室を開催致しました。対象は老人から子供まで50名の方が参加致しました。

コロナの為に茶室には入る人数は10名と制限されておりますので、午前10時から始まり50分ずつ5回に分け16時50分まで開催致しました。内容は①茶席の入り方②立ち方、座り方③お辞儀の仕方④お菓子の取り方、戴き方⑤茶祭の持ち方、茶の戴き方⑥お菓子の運び方、お茶の運び方、出し方⑦お茶の点て方、歩き方等々。

参加者からは大変に好評を戴き大いに喜ばれました。有意義な1日となりました。



○茶道体験教室

指導者..... 3名

参加者..... 50名

合唱フェスティバル2021

8月28日(土) 14:30～

8月29日(日) 10:30～

東京エレクトロン 荳崎文化ホール

開催状況

合唱部門は県民合唱フェスティバルとして、第74回全日本合唱コンクール山梨県大会と同日開催した。フェスティバルは、コンクールには参加しないが舞台上で歌うことを楽しみにされている合唱団のみなさまに、広く発表の機会を提供し、出演者相互の鑑賞を通して、より幅広い表現への取組みや合唱を通じた交流ができる場として機能していると感じる。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、やむなく中止した。合唱を愛好する多くの県民の方が、合唱活動への厳しい世論に会い、地域の公民館をはじめとする練習場所を失い、他者と歌うことができない残念な1年を過ごされたと思う。今年度は開催を目指して感染対策を講じ準備を進めた。開催を待つ団体からの問い合わせも複数あり、10団体以上の申込があったが、開催が近づく頃には感染の再拡大により、直前に多数の団体が辞退された。多くの団体が出演を断念せざるを得なかったのは大変残念であった。出場された団体は3名の講師より講評をいただき、大いに励まされたことと思う。

感染症の終息が何より望まれる。合唱団体の高齢化が進んでいる昨今、1回でも多く、仲間と共に歌う場を提供できるように準備していきたい。

○合唱フェスティバル

出演者数…………… 40名(4団体)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため無観客により開催



邦楽部門公演会

10月3日(日) 12:00~17:00
YCC県民文化ホール・小ホール

琴ワークショップ

12月12日(日)、19日(日) 9:30~15:30
笛吹市スコレーセンター

開催状況

日本の伝統音楽である邦楽を伝承し、次の世代に繋げるため、“邦楽部門公演会”を広く県民から参加者を募り、開催した。

江戸時代から伝えられた曲、明治、昭和に作曲された曲、尺八の本曲、生田流箏曲、山田流箏曲、そして長唄、現代邦楽等、多彩な演奏会が開催できた。新型コロナ禍にもかかわらず、感染防止策を徹底し、安全安心の下、日頃の地道な努力の成果を発表できた。日本の伝統芸術の性格の一つ「せぬがよき」文化の賜物かとも感じた演奏会であった。

今後も一層の精進に励み、日本の伝統文化をつなげ、普及に努めたいと思う。

又、上記目的の為に子供達に解り易い邦楽を伝える“体験型事業”として「琴ワークショップ(山田流箏曲)」を行った。コロナ禍の為、発表会には参加できなかったが、日程を変更して、12月中に延26名の参加者～小学校6年生を中心に、親子4組～を得て、「四季の日本古謡」の二重奏の合奏を仕上げた。(指導者 逸見花絵勢、新谷花保勢)

初めて触れるお琴とその音色に感動し、心に残った様子、継続することを願うところである。

○邦楽部門公演会

出演団体……………22団体

出演者数……………122名

入場者数……………228名

○琴ワークショップ

指導者数……………2名

参加者数……………12名



ダンスフェスティバル2021

11月13日(土) 17:15開場、18:00開演
YCC山梨県民文化ホール・小ホール

開催状況

コロナ禍で行われた洋舞公演であったが、幸い感染者数が減少している時期と重なったため、グループディスタンスを採用し、キャパシティを70%にしての開催となった。

参加者、舞台関係者は、ワクチン検査パッケージの提示を行い、また観客は検温・消毒などの対策を行い、万全を尽くした。しかし、準備を始める段階では数ヶ月後の予測をすることが難しく、公募は見送ることとなり、次回開催に希望を残す結果となった。

公演には、フラワーアレンジメント部門にコラボレーション企画を依頼。会場ホワイエには、洋舞公演にふさわしい、可憐で華やかな飾りつけにより、観客も写真を撮るなど、楽しむ姿が多く見られた。

芸文協参加の4団体によるプログラムは、どの団体も長期に渡る準備や練習をウィズコロナで乗り切り、総合舞芸術として素晴らしいステージを創り上げた。

次年度はどのような社会になっているのか想像もできないが、次代を担う子供たちが多く参加している洋舞部門として、文化芸術を絶やさないための努力を怠らず、未来につなげたいと願っている。



○ダンスフェスティバル

参加団体…………… 4団体
参加者数…………… 約100名
入場者数…………… 480名

民謡民舞フェスティバル

10月17日(日) 13:00～16:00
YCC県民文化ホール・小ホール

開催状況

民謡民舞部門としては本年、3年ぶりのフェスティバル開催となった。未だ猛威を振るうコロナウイルス感染症とどのように向き合い開催をするか部門内でも議論を重ねた。例年では演奏団体、舞踊団体が共演をしフィナーレでは出演者総出演の演目を行っていたが本年のフェスティバルでは共演はせず、各団体それぞれの発表となった。先にも述べたように3年ぶりの開催ということもあり例年以上に会員達がいきいきと演目をこなしているように感じた。フェスティバル当日は会場定員数の半数の入場制限を設けたがほぼ満席の入場で部門としても出演者としても非常に励みになった。第21回の民謡民舞フェスティバルでは共演の復活、民謡のルーツを辿れるような新たな演目を発表したい。



○民謡民舞フェスティバル

参加団体	11団体
参加者数	150名
入場者数	300名

朗読フェスティバル

11月23日(火・祝日) 13:00～16:00

山梨県立文学館・講堂

夏の朗読教室

8月1日(日) 10:00～15:00

山梨県立図書館 2階多目的ホール

開催状況

令和3年度事業については、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため事業内容により参加者、または来場者に入場制限を設けての開催となりました。

とはいえ、2年ぶりに実施できたことに深く感謝いたします。

○朗読フェスティバル

この事業の趣旨は、県下の朗読を楽しむ仲間が集まり、互いの交流を深めると共に、楽しい朗読の輪を広げることです。小学生から高齢者まで、世代を越えて同じステージで朗読発表できることは、貴重な体験です。

今回は、感染予防対策上マスク着用での朗読発表となりましたが、出演者の方々は日頃の練習成果を精一杯披露して下さいました。来場者の方々からは、2年ぶりの開催を楽しんだとの意見が寄せられました。

今回のコロナ禍で事業実施上多くの検討を必要としました。今後これを生かし、更に良いステージ作りに努力を重ねて参ります。

○夏の朗読教室

本事業は、勉強会を通して作品朗読の楽しさを知ってもらうと共に、朗読フェスティバルへつなげることを目的に実施しています。

今回は、人数制限を設けました。この教室を通して、朗読フェスティバルへの参加・集客につなげることができました。

○朗読フェスティバル

出演者(組)数……………13組24名

入場者数……………180名

○夏の朗読教室

指導者数……………10名

参加者数……………18名



太鼓部門公演

11月27日(土) 12:30~16:00
YCC県民文化ホール・小ホール

太鼓ワークショップ

8月29日(日)、9月12日(日)、10月10日(日)、
10月24日(日)、11月21日(日)
天野宣音楽事務所、笛吹市スコレーセンター
11月27日(土) 太鼓部門公演 出演

開催状況

第20回やまなし県民文化祭太鼓部門公演は、去る11月27日(土) コラニー文化ホール小ホールにて12時開場、12時30分開演にて350名のご来場を頂き開催された。コロナ対策のため収容定員800名に対して450名分のチケットを用意し当日はチケットの8割の入場者があった。

太鼓部門は、県民の皆様には日本の伝統文化である和太鼓に触れていただくことでその継承発展につなげることを目的としており、加えて20回の記念すべき年ということもあり、2部構成とし、和太鼓天野流阿羅漢と写真部門のコラボレーション特別企画を第2部に配し、事前に県民の皆様から公募した「山梨」をテーマにした写真をスライドショーにてご披露し受賞作品は、ホワイエに展示しました。第1部は、全国天野流準師範の山口琳平作曲の「響伝」をスコレーセンターでの全体合わせを含む5回の稽古を積んだワークショップ特別チームのほか7団体の公演となり大盛況の公演となった。

○太鼓部門公演

参加団体・出演者数 … 94名(8団体)
入場者数…………… 347名

○太鼓ワークショップ

指導者数…………… 1名
参加者数…………… 11名



吟剣詩舞道大会

12月5日(日) 12:00～16:00
山梨県立文学館・講堂

開催状況

コロナ禍の中、第1回の専門委員会を4月12日、続いて16日に開催、協議の結果、今年度の大会を実行する事に決定、準備を始める。例年通りの出演番組と青少年番組、一昨年中止となった「想」の吟剣詩舞道出演予定だった四番を特別番組として発表、全体を4部構成としてプログラム作成準備に入った。

6月7月の打合せ、9月には公共施設の閉鎖により会場確保ができず、一宮町滋源寺の御住職、総代表の御協力を頂き、本堂にて数回の会合をもち、プログラム印刷に進んだ。

12月5日、大会当日、役員は朝9時集合、会場準備、11時終了、リハーサル、食事をとり、12時オープニング、感染対策を十分にとり、県下26団体、256名が参加、39番組、全員がマスク着用、午後4時終了、解散、その後の関係者の感染もなく無事に終わったことに安堵した。

コロナと共存していく生活の中で吟道活動も進めていきたい。次世代に「つなぐ」との思いで青少年部門に力を入れていき、三世代が共に吟詠・舞をする様な舞台を作っていきたい。又他部門とのコラボも進めていき、広く芸術発表が出来る様努力していきたいと思えます。



○吟剣詩舞道大会

参加団体……………26団体
出演者数……………156名
入場者数……………256名

部門別フェスティバル受賞者一覧

■県民文化祭賞

部門		
美術	油彩	森 菊五郎
書道	漢字	清水 裕美
写真	モノクロ写真の部	堀江 幸太
文学	小説	野沢 薫子
〃	児童文学	相川のぼる
〃	エッセイ	志村 祥子
〃	詩	萩原 満治
〃	短歌	五 感
〃	俳句	八代菜美子
〃	川柳	浅川のぼる

■準県民文化祭賞

部門		
書道	漢字	朝比奈千沙
写真	ネイチャー写真の部	高津 秀俊
文学	詩	西村 美衣

■優秀賞

部門		
美術	油彩	木村 隆雄
〃	日本画	小林 早苗
〃	水墨画	上田 正秀
〃	水彩	信田 秀子
〃	〃	名取 悦子
〃	版画	小林 文香
〃	工芸	トオル・ツルタ
〃	〃	藤田 武男
〃	〃	赤岡 由理
〃	〃	若林 克友
書道	かな	百瀬千紗子
〃	漢字	柿崎 菜穂
〃	一字書	守屋 煌月
〃	調和体	松本 和芳
〃	漢字	大橋 翔
〃	〃	小宮山智山
〃	〃	望月 祐子
〃	かな	岡 美州
〃	刻字	渡辺 静湖
写真	モノクロ写真の部	広瀬みち子
〃	〃	野沢 宏旦
〃	カラー写真の部	村上 敏幸
〃	〃	長塚 進
〃	〃	三澤 久
〃	ネイチャー写真の部	白鳥 正次
〃	〃	萩原 榮雄
〃	小中高生の部	村上亜珠帆
〃	〃	白倉 亜望

部門		
文学	小説	小笠原幸夫
〃	児童文学	沢島 一郎
〃	エッセイ	雨宮 源吾
〃	短歌	秋山美弥子
〃	〃	古屋 舞子
〃	〃	中澤 晃子
〃	〃	望月美代子
〃	〃	依田 邦恵
〃	〃	坂本まゆみ
〃	俳句	廣瀬 博
〃	〃	水上 英子
〃	〃	千須和繁臣
〃	〃	渡邊伊勢乃
〃	〃	小泉 優子
〃	〃	坂本 好子
〃	川柳	長田喜代子
〃	〃	鶴田 甲敬
〃	〃	石橋恵美子
〃	〃	藤巻 朱實
〃	〃	深澤 弘
〃	〃	田中 春子
〃	〃	萩原 満治
〃	〃	青柳 中子

第20回やまなし県民文化祭 実施状況

実施事業	実施主体	実施年月日	実施会場	備考		
第20回記念事業	運営委員会	令和4年2月20日(日)	YCC 県民文化ホール 大ホール	コロナウイルス急拡大により中止		
部門別フェスティバル	やまなし・美の競演	書道部門 華道部門 写真部門 フラワーデザイン部門 ハンドクラフト部門	令和4年2月23日(水) ～25日(金)	防災新館 オープンスクエア全面		
	文学作品公募	文学部門	募集期間: 令和3年10月1日(金) ～31日(日) 表彰式: 令和4年2月26日(土)			
	大茶会	茶道部門			コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
	美術展	美術部門	令和3年11月13日(土) ～19日(金)	県立美術館		
	書道展	書道部門	令和3年10月27日(水) ～11月2日(火)	県立美術館		
	写真展	写真部門	令和3年11月3日(水) ～10日(水)	県立美術館		
	華道展	華道部門	令和3年10月7日(木) ～12日(火)	防災新館 オープンスクエア東西面		
	山梨フラワーデザイン展	フラワーデザイン部門	令和3年12月4日(土) ～5日(日)	甲府市総合市民会館		
	ハンドクラフト展	ハンドクラフト部門	令和3年11月4日(木) ～10日(水)	県立美術館		
	音楽祭	プレオーデション	音楽部門			コロナウイルス感染拡大防止のため中止
		オーデション				
		音楽祭				
	合唱フェスティバル	合唱部門	令和3年8月28日(土) ～29日(日)	東京エレクトロン 韮崎文化ホール 大ホール		
	邦楽部門公演会	邦楽部門	令和3年10月3日(日)	YCC 県民文化ホール 小ホール		
	演劇部門公演	演劇部門			コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
	洋舞公演・ダンスフェスティバル	洋舞部門	令和3年11月13日(土)	YCC 県民文化ホール 小ホール		
	民謡民舞フェスティバル	民謡民舞部門	令和3年10月17日(日)	YCC 県民文化ホール 小ホール		
	朗読フェスティバル	朗読部門	令和3年11月23日(火)	県立文学館 講堂		
	太鼓部門公演	太鼓部門	令和3年11月27日(土)	YCC 県民文化ホール 小ホール		
	吟剣詩舞道大会	吟剣詩舞部門	令和3年12月5日(日)	県立文学館講堂		
吹奏楽	甲府公演	吹奏楽部門			コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
	中巨摩公演					
	峡東公演					
	峡北公演					
	峡南公演					
	南都留公演					
北都留公演						
写真家大西みつく写真講座	写真部門	令和3年11月6日(土)	山梨県立美術館講堂			
いけばな体験教室	華道部門	令和3年10月9日(土) ～10日(日)	山梨県防災新館 1階県民ひろば			
フラワーデザイン作品制作体験	フラワーデザイン部門	令和3年12月4日(土) ～5日(日)	甲府市総合市民会館2階 遊亀公民館展示室			
茶道の基本作法を学ぶ体験教室	茶道部門	令和3年12月19日(日)	素心菴(芸術の森公園茶室)			
箏ワークショップ	邦楽部門	令和3年12月12日(日) 19日(日)	笛吹市スコレーセンター 1階和室			
子どもから大人までを対象とした朗読教室	朗読部門	令和3年8月1日(日)	山梨県立図書館2階 多目的ホール			
太鼓のワークショップを行い、ステージで発表	太鼓部門	令和3年8月29日(日) 9月12日(日) 10月10日(日) 10月24日(日) 11月21日(日)	天野宣音楽事務所			

協賛事業一覧

●事業名	●主催団体	●日時	●会場	●来場者数 ※は出演(品)者数
第43回 山梨県短歌大会	山梨県文化協会連合会	令和3年8月2日(月)から 9月30日(木)まで	※コロナ禍により会場使用 した大会は中止	146名 ※438点
「ムジカエテルナ」 第97回演奏会	ムジカエテルナ甲府	令和3年7月10日(土) 16時30分から18時まで	山梨県立図書館2階 多目的ホール	32名 ※4名
「ムジカエテルナ」 第98回演奏会	ムジカエテルナ甲府	令和3年11月27日(土) 15時30分から17時まで	山梨県立図書館2階 多目的ホール	29名 ※4名
山梨芸術劇場	山梨県芸術文化協会	令和3年6月から 令和4年1月まで	県内各地	集計中
	・和太鼓 天野会	令和3年6月17日(木)	山梨市立岩手小学校	44名
	・和太鼓 天野会	令和3年6月24日(木)	山梨市立笛川小学校	164名
	・劇団やまなみ	令和3年10月19日(火)	甲州市立塩山北小学校	130名
	・山梨交響楽団	令和3年11月13日(土)	富士河口湖町立大嵐小学校	54名
	・箏曲 香和会	令和4年1月20日(木)	中央市立玉穂南小学校	56名
	・劇団創作座	※新型コロナウイルス感染 拡大防止のため中止	甲州市立塩山中学校	—
第42回 富士吉田梅若薪能公演	富士吉田市梅若薪能 実行委員会	令和3年10月16日(土) 16時45分から19時まで	北口本宮富士浅間神社神楽殿	300名
第42回 山梨県高等学校芸術文化祭	山梨県高等学校 芸術文化祭実行委員会	令和3年9月16日(木)から 12月16日(木) 10時から17時まで	県内各地	新型コロナ ウイルス感 染拡大防 止のため一 般公開なし
ダイヤモンド富士観賞会	身延山ロープウェイ (身延登山鉄道株式会社)	令和3年9月30日(木)から 10月2日(土)まで	身延山ロープウェイ山頂 東側展望台	100名
第18回 富士北麓・東部地域フェス ティバル大正琴演奏発表会	富士北麓・東部地域 文化祭実行委員会 大正琴部門	令和3年11月28日(日) 13時から16時まで	西桂町づくり交流センター (きずなみらい館1階大広間)	54名 ※46名
富士三曲定期演奏会	富士三曲協会	令和3年10月10日(日)	都の杜うぐいすホール	新型コロナ ウイルス感 染拡大防 止のため中 止
第44回 山梨県川柳 第20回 山川協川柳第2回合同川柳 「誌上」大会	山梨県文化協会連合会 ・山梨県川柳協会	令和3年10月31日(日)	誌上大会のため会場なし	※172名
第40回記念山梨墨画院展	山梨墨画院	令和4年2月23日(水・祝) から3月1日(火)まで	山梨県立美術館 県民ギャラリーA・B	1,003名 ※102点

やまなし県民文化祭開催要綱

1 総則

やまなし県民文化祭（以下「県民文化祭」という。）を開催し、運営するためにこの要綱を定める。

2 趣旨

「くらしに文化が根づくやまなし」の実現をめざして、文化活動への参加と交流を促進し個性溢れる文化の創造のため、県民総参加の「県民文化祭」を開催する。

3 主催

- (1) 山梨県・やまなし県民文化祭実行委員会
- (2) 運営に参画する開催地市町村

4 共催

- (1) 山梨県芸術文化協会・山梨県文化協会連合会・山梨県高等学校文化連盟
- (2) 運営に参画する開催地市町村

5 事業内容

- (1) 総合フェスティバル
ジャンルを越えた総合的な文化芸術の発表と相互交流を促進し、新しい文化芸術の創造を図る次の事業を実施する。
- (2) 部門別フェスティバル
多様なジャンルの文化芸術活動者や団体に対し、発表の場を提供するとともに発表者と県民との交流を図る場とする。
- (3) 協賛事業
文化施設・市町村・団体・企業・学校等が行う各種文化芸術事業を協賛事業として募集する。

6 開催期間

年間を通じて実施する。

7 開催地

県内各地域とする。

やまなし県民文化祭協賛事業実施要項

1 趣旨

やまなし県民文化祭実行委員会は、やまなし県民文化祭（以下「県民文化祭」という）開催期間中に、文化施設、市町村、団体、企業、学校等が行う文化芸術事業で、申請のあったもののうち、県民文化祭の趣旨に沿ったものを協賛事業とする。

2 協賛事業の条件

県民文化祭協賛事業の条件は、次のとおりとする。

- (1) 県内で開催される各種文化芸術事業とする。
- (2) 事業内容について
事業の内容が次の各号にあうものとする。
 - ア 事業の内容が県民文化祭の趣旨に沿うもの
 - イ 事業が一般の人に公開されるもの
 - ウ 政治的・宗教的目的を有しないもの
 - エ 営利を主たる目的としないもの
 - オ 事業の実施にあたっては、事故防止対策、公衆衛生対策等に十分な措置が講ぜられるもの

3 事業経費

事業経費は、主催者の負担とする。

4 申請について

主催者は、当該事業が実施される期日1ヶ月前までに、「やまなし県民文化祭協賛事業参加申込書」により申請すること。

5 決定について

協賛事業の決定については、やまなし県民文化祭実行委員会会長が、当該事業について「協賛事業の条件」に基づいて決定し、主催者に文書で通知する。

6 実施報告

主催者は、当該事業が終了した後、速やかに「やまなし県民文化祭協賛事業実施報告書」を提出すること。

第20回やまなし県民文化祭実行委員会委員

野口英一	山梨県芸術文化協会会長	清水正	山梨県市長会常務理事
宮澤賢治	山梨県芸術文化協会副会長	牛奥久代	山梨県女性団体協議会会長
渡辺公男	山梨県芸術文化協会副会長	澤田正志	(一社)山梨県老人クラブ連合会副会長
鶴田一杏	山梨県文化協会連合会会長	勝村和重	山梨県PTA協議会親子安全会扶助会 会長
篠原誠	山梨県文化協会連合会副会長	三井雅博	(株)山梨日日新聞社編集局長
宮澤千秋	山梨県文化協会連合会副会長	安出光伸	NHK甲府放送局局長
加々美好	山梨県文化協会連合会副会長	水石和仁	(株)テレビ山梨報道制作局長
小林健	山梨県高等学校文化連盟理事長	武井功	(株)山梨放送報道制作局長
上小澤始	(公財)やまなし文化学習協会専務理事	横内勝	学識経験者
窪田包久	山梨県公民館連絡協議会会長	小田切三男	山梨県教育委員会教育次長
新井達司	山梨県博物館協会代表	赤岡重人	山梨県観光文化部長部長
加藤信一	山梨県公立文化施設協議会事務局長		

やまなし県民文化祭実行委員会規約

- (名称)
第1条 本会は、やまなし県民文化祭実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。
- (目的)
第2条 実行委員会は、やまなし県民文化祭（以下「県民文化祭」という。）の企画・運営について協議し、県民文化祭の発展と充実を図ることを目的とする。
- (組織)
第3条 実行委員会は、山梨県芸術文化協会・山梨県文化協会連合会・山梨県高等学校文化連盟・(公財)やまなし文化学習協会・山梨県公民館連絡協議会・山梨県博物館協会・山梨県公立文化施設協議会・山梨県市長会・山梨県町村会・報道関係・学識経験者・一般県民・山梨県教育委員会・山梨県のうちから知事が委嘱する委員（以下「実行委員」という。）をもって構成する。
- (役員)
第4条 実行委員会に、次の役員を置く。
 - 1 会長1名
 - 2 副会長若干名
 - 3 監事2名
 - 4 会長・副会長は、実行委員の互選とする。
 - 5 監事は、会長が委嘱する。ただし、実行委員を兼ねることはできない。
- (役員の職務)
第5条 会長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。
 - 1 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ定めた順序により、その職務を代理する。
 - 2 監事は、会計その他の事務を監査する。
- (顧問及び参与)
第6条 実行委員会に顧問及び参与を置くことができる。
 - 1 顧問及び参与は、会長が委嘱する。
 - 2 顧問は、重要事項について会長の諮問に応じ、参与は、重要な会務に携わる。
- (任期)
第7条 役員、実行委員、顧問及び参与の任期は1年とし、後任者が決定されるまで在任する。但し、再任を妨げない。
- (構成)
第8条 実行委員会の会議は、会長、副会長及び実行委員をもって構成する。
- (招集)
第9条 会議は、会長が招集する。
- (議長)
第10条 会議の議長は、会長がこれにあたる。
- (議決事項)
第11条 会議は、次の事項を議決する。
 - 1 県民文化祭の開催及び総合的な運営に関する事項
 - 2 規約に関する事項
 - 3 事業計画及び事業報告に関する事項
 - 4 予算及び決算に関する事項
 - 5 その他重要な事項
- (議決)
第12条 会議の議決は、出席実行委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- (会長の専決区分)
第13条 会長は緊急を要する事項について、専決処分をすることができる。
 - 1 会長は、前項の規定により専決処分したときは、これを次の会議において報告しなければならない。
- (会議の公開)
第14条 会議は、公開とする。ただし、出席した実行委員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。
- (会議録)
第15条 会長は、次に掲げる事項を記載した会議録を作成するものとする。
 - 1 会議の日時及び場所
 - 2 出席及び欠席した実行委員の氏名
 - 3 議決事項
 - 4 評決における賛否
 - 5 その他必要な事項
 - 1 会議録には、会長及び出席した実行委員のうちから、会長が指名した2名の実行委員が署名するものとする。
- (運営委員会)
第16条 実行委員会は、開催要綱に示す事業を推進するため、運営委員会（以下「運営委員会」という。）を、置くものとする。
 - 1 前各号に定めるもののほか、運営委員会に関し必要な事項は、会長が別に定める。
- (事務局)
第17条 実行委員会の事務を処理するため、甲府市丸の内1-6-1山梨県観光文化部文化振興・文化財課内に事務局を置く。
 - 1 事務局に関し、必要な事項は、会長が別に定める。
- (経費)
第18条 実行委員会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。
 - 1 補助金
 - 2 その他の収入
- (会計期間)
第19条 実行委員会の会計期間は、4月1日から3月31日までとする。
- (委任)
第20条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し、必要な事項は、会長が別に定める。
- 附 則
 - 1 この規約は、平成12年11月1日から施行する。
 - 2 平成12年度の実行委員の任期は、第7条1項の規定にかかわらず平成14年3月31日までとする。
 - 3 この規約は、平成18年4月1日から施行する。
 - 4 この規約は、平成22年5月11日から施行する。
 - 5 この規約は、平成28年4月1日から施行する。
 - 6 この規約は、令和2年4月1日から施行する。

第20回やまなし県民文化祭運営委員会委員

■総合フェスティバル■

委員長 ○ 大橋 洋之 書道専門委員長	委員 ※ 小石 晋 音楽専門委員長
副委員長 ※ 成澤 千香子 洋舞専門委員長	〃 ※ 渡辺 公男 合唱専門委員長
委員 宮澤 賢治 文学専門委員長	〃 ※ 郷 晃輔 邦楽専門委員長
〃 鶴田 宗慶 茶道専門委員長	〃 ※ 河野 通方 演劇専門委員長
〃 ○ 保坂 博司 美術専門委員長	〃 ※ 福嶋 孝顕 民謡民舞専門委員長
〃 ○ 守屋 喜彦 写真専門委員長	〃 ※ 横森 美保 朗読専門委員長
〃 ○ 稲葉 一溪 華道専門委員長	〃 ※ 深澤 壽 太鼓専門委員長
〃 ○ 奥山 幾代子 フラワーデザイン専門委員長	〃 ※ 天野 岳庵 吟剣詩舞専門委員長
〃 ○ 進藤 恵 ハンドクラフト専門委員長	〃 ※ 仲田 太年 吹奏楽専門委員長

○は展示専門委員 ※は舞台専門委員

■部門別フェスティバル■

委員長 ※ 渡辺 公男 合唱専門委員長	委員 ※ 小石 晋 音楽専門委員長
副委員長 宮澤 賢治 文学専門委員長	〃 ※ 郷 晃輔 邦楽専門委員長
委員 鶴田 宗慶 茶道専門委員長	〃 ※ 河野 通方 演劇専門委員長
〃 ○ 保坂 博司 美術専門委員長	〃 ※ 成澤 千香子 洋舞専門委員長
〃 ○ 大橋 洋之 書道専門委員長	〃 ※ 福嶋 孝顕 民謡民舞専門委員長
〃 ○ 守屋 喜彦 写真専門委員長	〃 ※ 横森 美保 朗読専門委員長
〃 ○ 稲葉 一溪 華道専門委員長	〃 ※ 深澤 壽 太鼓専門委員長
〃 ○ 奥山 幾代子 フラワーデザイン専門委員長	〃 ※ 天野 岳庵 吟剣詩舞専門委員長
〃 ○ 進藤 恵 ハンドクラフト専門委員長	〃 ※ 仲田 太年 吹奏楽専門委員長

○は展示専門委員 ※は舞台専門委員

やまなし県民文化祭運営委員会規約

(趣 旨)

第1条 この規約は、やまなし県民文化祭実行委員会規約第16条の規定により設置する運営委員会（以下「運営委員会」という。）の運営に関して、必要な事項を定めるものとする。

(構 成)

第2条 運営委員会は、やまなし県民文化祭実行委員会会長が委嘱した委員（以下「運営委員」という。）をもって充てる。
2 運営委員会は、総合フェスティバル、部門別フェスティバルにそれぞれ設けるものとする。

(役 員)

第3条 運営委員会には、次の役員を置く。
(1) 委員長1名
(2) 副委員長1名
2 委員長及び副委員長は、県民文化祭実行委員会会長が指名する者をもって充てる。
3 委員長は、所掌事務を統括する。
4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(所掌事務)

第4条 運営委員会は、次に掲げる事項を協議し、決定する。

(1) 実施計画の策定に関する事項

(2) 企画・演出に関する事項

(3) 会場計画に関する事項

(4) その他事業の実施・運営に関する事項

(任 期)

第5条 運営委員の任期は1年とし、後任者が決定されるまで在任する。但し、再任は妨げない。

(開 催)

第6条 運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し、運営委員会の議長は委員長がこれにあたる。

(事務局)

第7条 運営委員会の事務局は、甲府市丸の内1-6-1山梨県観光文化部文化振興・文化財課内に置く。

附 則

1 この規約は、平成12年11月1日から施行する。

2 この規約は、平成18年11月1日から施行する。

3 この規約は、平成22年5月11日から施行する。

4 この規約は、平成28年4月1日から施行する。

5 この規約は、令和2年4月1日から施行する。

やまなし県民文化祭実行委員会事務局

山梨県観光文化部 文化振興・文化財課 文化芸術振興担当内

第20回やまなし県民文化祭部門別フェスティバル 専門委員

文学 21名

宮澤 賢治、井上 康明、石黒 佐近、小池 映二、
犬飼 和雄、水木 亮、入倉 文子、八木 春夫、
安藤 一宏、雨宮 慶子、三枝 浩樹、古屋 正作、
河野小百合、白倉 一民、保坂 敏子、長田 群青、
宮下 時雨、玉島よ志子、井上信太郎、望月たか美、
木村 源子

茶道 5名

鶴田 宗慶、牛奥宗意久、鈴木 仙陽、安井 窓源、
市川 宗陽

美術 28名

保坂 博司、中野 宗夫、手塚 義彦、浅川 徹、
雨宮弥太郎、安藤 峯子、榎並 和春、加島 查、
小林 宏、五味 泰平、齊藤 静輝、齊藤 武士、
坂本 一行、須田クニオ、中込 満夫、中村 修二、
早川二三郎、藤原 満代、古屋真知子、堀内 洋子、
増田 実、三浦 昌秀、三井 正人、向山富士雄、
山本 承功、吉田 光雄、渡辺 勝俊、鈴木 博美

書道 17名

大橋 洋之、伊藤 緑山、花田 龍溪、矢崎 美咲、
笠井 魚山、田中 志津、雨宮 春聲、天野 白汀、
赤池 幽水、上野 卿堂、杉本 蕙香、武井 由苑、
安部 光泉、上野 緑苑、市川 擁舟、宮田 香彩、
樋川 朝風

写真 19名

守屋 喜彦、村松 貞夫、岩間 光明、磯部 寛、
内藤 進、松村 央男、高橋 峰雄、清田 徹磨、
森 雅愛、小澤 松郎、志村 茂雄、村松 義輝、
岩間 文洋、小林 守雄、名取 高德、雨宮 正英、
山本 賢治、早川 和枝、丹澤 恒夫

華道 16名

稲葉 一溪、鮎澤 昇雲、鶴田 一杏、高山 一能、
深澤 一黄、内藤 楽松、砂田 鵬華、飯島 日光、
興石 一宏、納富 聖華、名取 春雲、有泉 一金、
小俣 理典、山口 飛水、吉岡 幸曳、島田 一源

フラワーデザイン 5名

奥山幾代子、安達 良枝、岡部 信弥、小田切美奈子、
中込 まき

ハンドクラフト 11名

進藤 恵、小島 照美、窪澤 三和、大久保明美、
樋口 裕子、保坂 初美、平出 芳恵、横内 正史、
三枝ひとみ、林 由美、折原 精二

音楽 17名

小石 晋、小池 郷二、今津 初美、神宮寺淑子、
飯島 和久、大久保裕文、長田 美歩、金森 静子、
鈴木 博雅、田川 智美、竹原久美子、野口 麻美、
森屋 礼子、池山 洋子、藤巻 信哉、井出 香枝
内藤 睦雄

合唱 10名

渡辺 公男、渡邊 玲子、足達 勝子、落合 節子、
山崎 浩司、渡邊 重敏、依田 貴司、丸山記代子、
落合 美紀、中村 秀樹

邦楽 18名

郷 晃輔、中田 一勢、岡部 信童、雨宮 洋子、
岡安喜千萩、岡安喜千智、岡安 喜和、貴音芙美和、
岡安喜和広、田中かほる、中村 麗声、根津 讚声、
小沢 逸豪、村田 如仙、鈴木 逸明、鈴木博延昭、
羽田萬幸勢、雨宮三四子

演劇 1名

河野 通方

洋舞 4名

成澤千香子、深沢 由美、三井 環、中村 元子

民謡民舞 12名

福嶋 孝顕、保坂とみ子、扇寿希洋友、矢野 和子、
井上さかえ、中澤 緑、萩田 久子、小林 敏子、
藤田 淳三、飯野 妙子、青柳眞佐美、藤本 純秀

朗読 10名

横森 美保、輿水 万里、山形 敏貴、永田 京子、
猪狩紀美子、小澤 篤子、中山 幸子、功刀 朝香、
清水美智子、渡邊さゆり

太鼓 12名

深澤 壽、石川 勉、植松 佑一、伊藤 貴、
北原 久、市瀬 祐一、中込 晴美、飛田 邦秀、
山口 琳平、飯野多恵子、渡辺 正志、森本 秀夫

吟剣詩舞 16名

天野 岳庵、木之瀬星謹、小松 獅剣、丸山美千啓、
山縣 静博、萩田 飛翔、木之瀬星鶯、植原 岳久、
風間 岳勲、遠藤 翠香、秋山 徳芙、齋藤 錦鵬、
小松 獅優、山本 嘉悠、深沢 翠治、伊東美千郷

吹奏楽 9名

仲田 太年、田中 誠、玉島 博一、北畑 貴美、
秋山 尚克、矢崎 琢、秋山 菜穂、竹川 美和、
小佐野 拓

第20回やまなし県民文化祭記録集

発行 令和4年3月

編集・発行

やまなし県民文化祭実行委員会

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

山梨県県民生活部生涯学習文化課内

TEL 055(223)1797

FAX 055(223)1320

E-mail shougai-gk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷 株式会社 ヨネヤ

